事業概要 【情報教育推進事業（統合型学習支援ソフトウエアの活用）】

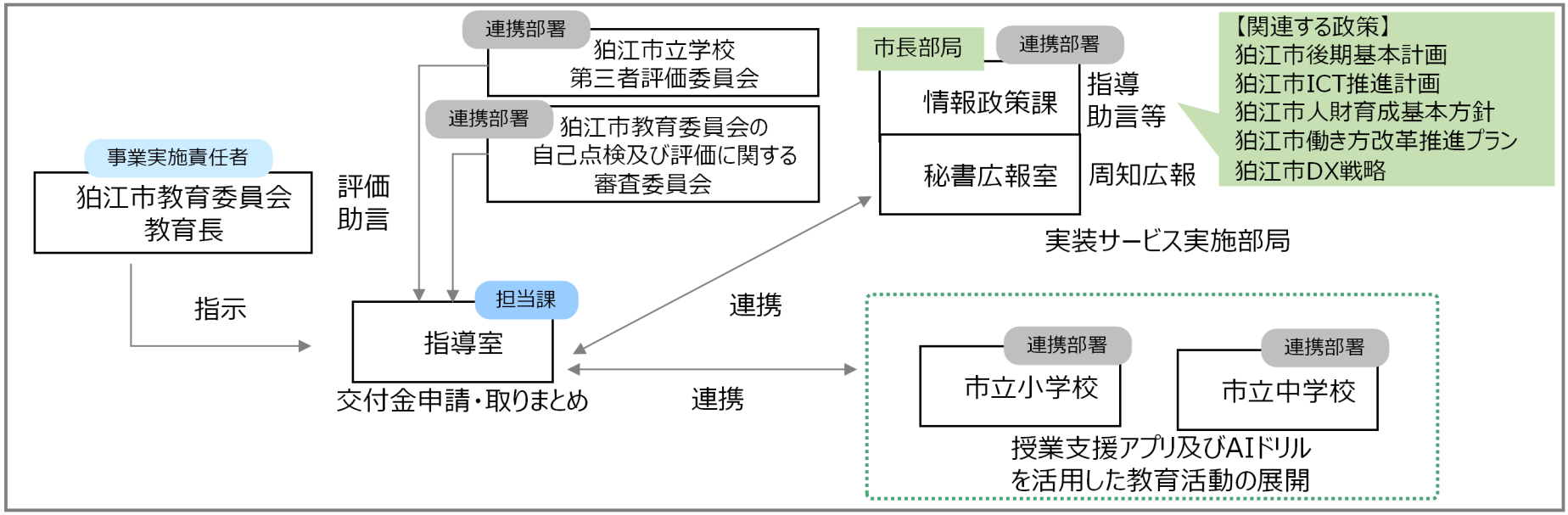
自治体名	東京都狛江市	人口	82,099人 （12月1日現在）	事業費	44,880千円 （14,960千円×３ヵ年）
事業概要	狛江市では、予測不可能なこれからの社会を生きる子供たちに必要な資質・能力の確実な育成を図るため、児童・生徒への指導や学び方を追究し、質の高い教育を市民に提供することが課題となっている。そこで狛江市立小・中学校全校に統合型学習支援ソフトウェア（授業支援アプリ及びAIドリル）を導入することで、①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実及び東京都が目指す「デジタルを活用したこれからの学び」、②多様なニーズに応じた家庭における学習支援、③教員の負担軽減（働き方改革）の実現を図り、質の高い教育を市民に提供するとともに、魅力向上を図り、教育で選ばれる狛江市を実現する。				
具体サービス	【授業支援アプリ】 ○児童・生徒の考えをデジタル技術を活用しながら、思い通りに表現することができる。併せて児童・生徒の考えを瞬時に共有し、質的・量的にも充実した双方向のやり取りが可能となる。 ○児童・生徒の成果物は蓄積することができ、指導と評価の一体化を図ることができる。 ○教員が授業で活用したデータを再利用、共有することができ、教員の働き方改革に繋がる。 【AIドリル】 ○授業中だけでなく放課後学習でもICTを活用した個別最適化学習を進めるとともに、学習サイクルを構築し、スモールステップで知識を習得することができる。 ○教員が児童・生徒の取組状況等をいつでも詳細に把握することができ、適切な支援に繋げることができる。データの蓄積により教員の業務効率化・教育データの利活用を促進することができる。 ○自動採点機能により、教員の負担軽減に繋がる。				
主なKPI	【アウトプット指標（活動指標）】 ①授業支援アプリの起動率（週当たりのアクティブ・ユーザー率） ②AIドリルの取組状況（利用時間・学習履歴）		【アウトカム指標（成果指標）】 ①全国学力・学習状況調査（小6・中3）の調査結果（学習状況）【ICT機器の活用】 ②全国学力・学習状況調査（小6・中3）の調査結果（学習状況）【学習時間】		



※図は「学びのイノベーション事業実証研究報告書」（平成26年４月文部科学省）から

推進体制

■ 庁内の推進体制

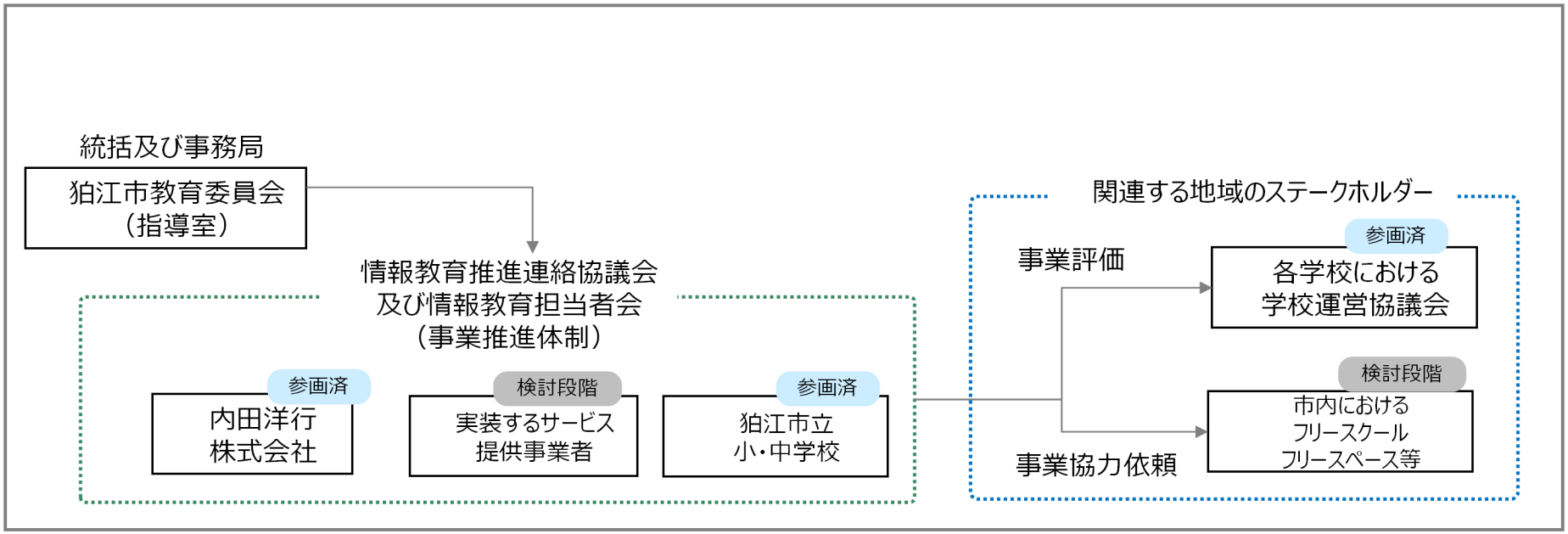


【各課室の役割】

名称	名称	役割
事業実施責任者	狛江市教育委員会 教育長	• 授業支援アプリ及びAIドリルの導入に関する取りまとめ、事業全体のマネージメント・進捗管理
事業担当課	指導室	• アプリのシステム調達、関連部署との調整、業務フローの検討
連携部署	狛江市立小・中学校	• 授業支援アプリ及びAIドリルを活用した教育活動の展開
連携部署	情報政策室	• 関連する情報政策との適合性に係る指導・助言等
連携部署	秘書広報室	• 広報誌の作成
連携部署	狛江市教育委員会の 自己点検及び評価に関する審査委員会	• 事業に対する評価・助言 【構成員】教育に関する学識経験者２名、公募市民２名
連携部署	狛江市立学校 第三者評価委員会	• 実装サービス実施部局及び担当課からの支援に対する評価・助言 【構成員】学識経験者３名、民間企業の経営者等１名

推進体制

■ 事業推進体制



名称	役割
狛江市 教育委員会 （指導室）	• 事業計画の立案 • 報告書作成をはじめとする事業全般の管理・統括業務
実装するサービス 提供事業者	• 協議会への参加（状況によって担当者会に参加） • 統合型学習支援ソフトウェアを提供
内田洋行 株式会社	• 協議会への参加（状況によって担当者会に参加） • 統合型学習支援ソフトウェア活用の環境整備
狛江市立 小・中学校	• 統合型学習支援ソフトウェアの活用 • 担当者会への参加

名称	役割
各学校における 学校運営協議会	• 各学校における統合型学習支援ソフトウェア等の活用した学校教育の充実に関する評価
市内における フリースクール・ フリースペース等	• 利用児童・生徒のAIドリル活用に係る協力依頼